

～ 第 4 回 第 6 次留萌市総合計画策定市民会議 ～

【開催概要】

- 平成 28 年 6 月 20 日（月） 15:05～16:57
- 留萌市役所 2 階 2 号会議室

【出席委員】

座長	伊 端 隆 康	委員	大 石 昌 明	
副座長	大 館 哲 也	委員	串 橋 伸 幸	
副座長	田 中 美 智 子	委員	高 橋 理 佳	（委員 6 名）

【事務局】

政策調整課主幹 佐々木 仁 彦      政策調整課主査 江 川 雅 信

\*\*\*\*\*

【協議及び意見交換事項】

- ① 第 6 次総合計画の基本テーマ、基本理念について      【資料 1】
- ② 各施策の方向性について      【資料 2】

【内容】

- ① 第 6 次留萌市総合計画の基本テーマ・基本理念について

〔意見・確認等〕

- 第 5 次計画より明確になった、伝わりやすい。
- 「コンパクトシティ」はよく使われるが、受け取り方に違いがあり誤解される。
- マチづくりには「人」が重要、人が集まり、みんなで作り上げる。
- 50 年という単語を使うと、限定的になってしまう。
- 仮決定とする。今後、各種団体等との意見交換の中で、変更も有り得る。
- 基本理念・基本テーマ(仮決定)

【理 念】	「安全・安心な暮らし」 「快適な暮らし」 ※後日「教育」視点での言葉に変更する 「活力あるマチ」 「コンパクトなマチ」
【テーマ】	「みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌」

- ② 各施策の方向性について

〔意見・確認等〕

7. やる気と活気

- 具体的手法が分からない、書かれていない。
- 雇用において、Uターン促進を書き入れるべき。
- 公共施設の建て替え(配置)、都市マスタープランの見直しを早急に行うべき。
- 商店街の取り組み、市民が地元で消費することが原点であり、消費しなければ商店街など維持できるはずがない。
- 交通網の整備・確保のためにも、公共施設の集約化、予定地などの議論が必要。

1. 思いやりと安心

- 地域コミュニティの活性化が重要。防災、子育て・学習支援など全てに連動してくる。
- 若い人が活躍できる町内会組織となるべきで、企業のバックアップ(従業員派遣)なども必要。
- 地域コミュニティのアドバイザー、コーディネーター人材制度の構築、派遣。
- 地域に行政の担い手、役割を与え、活躍させることが必要。埋もれた人材がいるはず。
- 病院に対する市民意識の変更が必要。市民の役割は、悪い評判だけをいうのではない。研修医も多く来ており、受け入れる環境、市民の意識を変えなければいけない。

#### ウ. 自然と資源

- 雪などの資源を使った「食」だけではない地産地消を検討できないか。

#### エ. 暮らしと安全

- 市民の防災意識の向上を図らせる必要がある。
- 防災は地域コミュニティと密接した関連性がある。(防災運動会などの活用)
- 危険家屋対策や一般的な空き家・空き店舗の有効活用(他分類)

#### オ. 夢と宝

- コミュニティ、子どもの教育、医療は必要不可欠。
- 教育環境(学力レベルの向上)を求め流出しており、留萌でも学力・運動能力向上できるマチに。
- 子どもの学力環境が整うことで、就労機会(母親)、転勤族の単身から家族移住に変わる。
- 福祉重視で子どもの教育環境が手薄いイメージがある。
- 外国人とのコミュニケーションの機会を増やす取り組み。
- 学校以外の地域コミュニティ、奉仕団体が積極的にかかわる
- 温水プールの開設期間延長。行政負担、利用者負担を議論する場が必要

#### カ. 海と港

- 港単体だけで考える時代ではなくなった。JR留萌駅、船場公園、高規格幹線道路、北海道合板跡地など観光面での検討が必要。
- 港の周辺環境を活用した、人を呼び込む施策を検討すべき。
- 市民が親しみを持てる空間整備。
- 昔の計画の再認識と新たな発想
- 港は外すことができないキーワード

#### キ. 全体

- テーマ「みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌」で仮決定
- 市民目線でわかりやすく、多くの人がかかわる
- 具体的手法は、抽象的ではなくできるだけ具体的な記載で
- 項目を減らしていく
- 対話と信頼は市役所のことなので、削除する
- 本日の個別意見をできるだけ取り入れる
- 基本理念に「教育」という言葉を入れていく
- 何か気づいた点などあれば、メール発信、事務局提出して情報を共有していく。

#### 【次回会議】

- 7月4日(月)午後3時から 市役所3階 3・4号会議室